

## 1. 「一直線上にある」を式にする

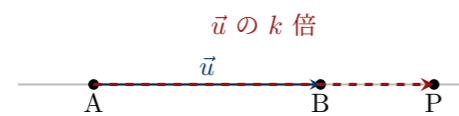
ベクトルの強みは、「3 点が一直線上にある（共線）」という幾何学的な状態を、シンプルな等式で表現できる点にある。

## 共線条件（基本形）

2 点 A, B が異なるとき、点 P が直線 AB 上にあるための必要十分条件は、

$$\overrightarrow{AP} = k\overrightarrow{AB}$$

となる実数  $k$  が存在することである。



向きが同じ（または逆）で  
ぴよーんと伸ばせば一致する → 実数倍

これは「平行条件  $\vec{a}/\vec{b} \iff \vec{b} = k\vec{a}$ 」において、始点を A に共有させたものと同じである。

## 2. 位置ベクトルと係数の和

始点を任意の点 O（原点）とした場合どうなるか。 $\overrightarrow{AP} = k\overrightarrow{AB}$  を書き換えてみる。

$$\vec{p} - \vec{a} = k(\vec{b} - \vec{a})$$

$$\vec{p} = (1 - k)\vec{a} + k\vec{b}$$

ここで  $1 - k = s, k = t$  とおくと、 $s + t = 1$  となる。

## 共線条件（係数の和が 1）

点 P が直線 AB 上にある  $\iff$

$$\vec{p} = s\vec{a} + t\vec{b} \text{ かつ } s + t = 1$$

## 例題 1（基本確認）

$\triangle OAB$  において、 $\overrightarrow{OP} = \frac{1}{3}\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{b}$  とする。点 P は直線 AB 上にあるか確認せよ。

解答：係数の和を確認する。 $\frac{1}{3} + \frac{2}{3} = 1$ 。よって、点 P は直線 AB 上にある。（具体的には 2 : 1 に内分する点）

## 3. 図形の証明問題

## 4. 「係数の和が 1」の応用

「3 点 A, B, C が一直線上にあることを示せ」と言わされたら,

$$\overrightarrow{AC} = k\overrightarrow{AB}$$

となる実数  $k$  を見つければよい（始点はどこでもよい）。

## 例題 2 三角形と共線条件

$\triangle OAB$ において,  $\vec{a} = \overrightarrow{OA}, \vec{b} = \overrightarrow{OB}$  とする。 $\overrightarrow{OP} = 3\vec{a} - 2\vec{b}, \overrightarrow{OQ} = -\frac{3}{2}\vec{a} + \vec{b}$ 。このとき, O, P, Q は一直線上にあることを示せ。

$\overrightarrow{OP} = s\vec{a} + t\vec{b}$ において, 点 P が直線 AB 上にある条件は  $s + t = 1$  である。これをを利用して, 未知の係数を決定することができる。

## 例題 3 (交点の位置ベクトル・導入)

$\triangle OAB$ において, 辺 OA を  $1:2$  に内分する点を C, 辺 OB を  $2:3$  に内分する点を D とする。線分 AD と BC の交点を P とする。 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}, \overrightarrow{OB} = \vec{b}$  とする。

- (1) 点 P は直線 AD 上にあるので,  $\overrightarrow{OP} = (1-s)\vec{a} + s\overrightarrow{OD}$  と表せる。これを  $\vec{a}, \vec{b}$  で表せ。
- (2) 点 P は直線 BC 上にあるので,  $\overrightarrow{OP} = (1-t)\overrightarrow{OC} + t\vec{b}$  と表せる。これを  $\vec{a}, \vec{b}$  で表せ。
- (3)  $\vec{a}, \vec{b}$  の一次独立性を用いて  $s, t$  を求め,  $\overrightarrow{OP}$  を決定せよ。

## 次回予告

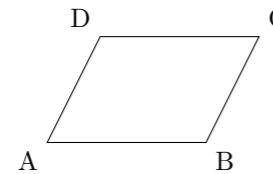
この「2通りで表して係数比較」が, ベクトルにおける交点計算の必勝パターンである。

## 確認テスト (A: 基本)

## 確認テスト (B: 標準)

## 練習 A1 (一直線上にある条件)

平行四辺形 ABCD において、辺 BC の中点を E、辺 CD の中点を F とする。 $\overrightarrow{AB} = \vec{b}$ ,  $\overrightarrow{AD} = \vec{d}$  とする。 $\overrightarrow{AE}, \overrightarrow{AF}$  を  $\vec{b}, \vec{d}$  で表し、 $\overrightarrow{AC}$  との間に共線関係があるか（一直線上にあるか）調べよ。



Memo / Answer

## 練習 A2 (係数の和)

$\triangle ABC$  と点 P について、

$$\overrightarrow{AP} = \frac{1}{4}\overrightarrow{AB} + k\overrightarrow{AC}$$

が成り立つ。点 P が直線 BC 上にあるとき、実数 k の値を求めよ。

Memo / Answer

## 練習 B1 (一直線の証明)

$\triangle OAB$  において、 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ ,  $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$  とする。辺 OA を 3:2 に内分する点を C、辺 OB を 3:1 に内分する点を D とする。線分 BC と AD の交点を P とするとき、 $\overrightarrow{OP}$  を  $\vec{a}, \vec{b}$  で表せ。  
(ヒント: P は BC 上  $\rightarrow \vec{p} = (1-s)\vec{b} + s\vec{c} \dots$ )

Memo / Answer

## 解答 (A: 基本)

## Memo / Answer

## A1 解答:

(1)  $\overrightarrow{AE}$ : E は BC の中点なので  $\overrightarrow{BE} = \frac{1}{2}\vec{d}$ .

$$\overrightarrow{AE} = \vec{b} + \frac{1}{2}\vec{d}$$

(2)  $\overrightarrow{AF}$ : F は CD の中点なので  $\overrightarrow{DF} = \frac{1}{2}\vec{b}$ .

$$\overrightarrow{AF} = \vec{d} + \frac{1}{2}\vec{b}$$

(3)  $\overrightarrow{AC} = \vec{b} + \vec{d}$ .

$\overrightarrow{AE} + \overrightarrow{AF} = \frac{3}{2}(\vec{b} + \vec{d}) = \frac{3}{2}\overrightarrow{AC}$ . これは A, E, F が一直線という意味ではない.  $\overrightarrow{AC} = k\overrightarrow{AE}$  となる  $k$  は存在しないため, A, C, E は一直線上にはない. (図を見れば明らか) 補足: 問題の意図としては「計算練習」です. もし A, E, F が一直線上にあるなら  $\overrightarrow{AF} = k\overrightarrow{AE}$  となるはずですが,  $\vec{d} + \frac{1}{2}\vec{b} = k(\vec{b} + \frac{1}{2}\vec{d})$  係数比較すると  $1 = k/2, 1/2 = k \implies k = 2, k = 1/2$  (矛盾). よって一直線上にはありません.

## 解答 (B: 標準)

## Memo / Answer

## B1 解答:

条件より  $\overrightarrow{OC} = \frac{3}{5}\vec{a}$ ,  $\overrightarrow{OD} = \frac{3}{4}\vec{b}$ .(1) 点 P は線分 BC 上にあるので,  $s : (1-s)$  に内分すると考える.

$$\overrightarrow{OP} = (1-s)\overrightarrow{OB} + s\overrightarrow{OC} = (1-s)\vec{b} + \frac{3}{5}s\vec{a} \quad \cdots (1)$$

(2) 点 P は線分 AD 上にあるので,  $t : (1-t)$  に内分すると考える.

$$\overrightarrow{OP} = (1-t)\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OD} = (1-t)\vec{a} + \frac{3}{4}t\vec{b} \quad \cdots (2)$$

(3) 係数比較  $\vec{a}, \vec{b}$  は一次独立なので:

$$\begin{cases} \frac{3}{5}s = 1-t \\ 1-s = \frac{3}{4}t \end{cases}$$

第 2 式より  $s = 1 - \frac{3}{4}t$ . これを第 1 式へ代入.  $\frac{3}{5}(1 - \frac{3}{4}t) = 1 - t$ 

$$12(1 - \frac{3}{4}t) = 20(1 - t) \quad (\text{両辺 } 20 \text{ 倍})$$

$$12 - 9t = 20 - 20t \implies 11t = 8 \implies t = \frac{8}{11}$$

$$(2) \text{へ代入して: } \overrightarrow{OP} = (1 - \frac{8}{11})\vec{a} + \frac{3}{4} \cdot \frac{8}{11}\vec{b} = \frac{3}{11}\vec{a} + \frac{6}{11}\vec{b}$$

答え:  $\overrightarrow{OP} = \frac{3}{11}\vec{a} + \frac{6}{11}\vec{b}$ 

## Memo / Answer

## A2 解答:

点 P が直線 BC 上にある条件は,  $\overrightarrow{AB}$  と  $\overrightarrow{AC}$  の係数の和が 1 になることである. (始点 A が基準になっているため)

$$\frac{1}{4} + k = 1$$

$$\therefore k = \frac{3}{4}$$

確認:  $\vec{p} = \frac{1}{4}\vec{b} + \frac{3}{4}\vec{c} = \frac{1}{4}\vec{b} + \frac{3}{4}\vec{e}$ . これは線分 BC を 3:1 に内分する点である.